

たんぽぽ



第1号・H28年6月

社会福祉法人岩手愛児会
たんぽぽ病児保育所
〒020-0102
盛岡市上田字松屋敷11-14
Tel 019-662-5619
Fax 019-662-5695
E-mail tanpopo@aiji.or.jp

たんぽぽ病児保育所の紹介

※盛岡市の子育て支援事業委託施設です

松園の「もりおかこども病院」に隣接している当保育所は、子育てと就労の両立支援を目的に病気の回復に向かっているけれど、保育所に預けられない場合の一時的預かり保育を行っています。病気のために集団保育が困難なお子様をお仕事などの都合により、ご家庭で保育できない保護者に代わって看護師・保育士が連携して、保育・服薬介助・症状に対応した食事やおやつを提供を行っています。

園医：梶原和華、看護師：柴田由美、保育士：西山直美・津嶋久美子

利用について

まず事前に、かかりつけ医の受診診断が必要です。

定員：6名（電話受付 8:00～18:00、前日の保育予約可能）

利用可能日時：月曜～金曜の8:00～18:00（隔離保育9:00～17:00）

（お休み：土日祝日、お盆、お正月）

対象年齢：生後2ヶ月～小学6年生まで利用できます。

※医療処置、受診治療（点滴など）、入院が必要な場合はお預かり出来ません。

※入室時、及び電話予約の時より病状の変化や悪化が見られる場合は、再度受診をお願いします。

※電話で問い合わせ、利用申込してからの保育になります。

（定員に空きがあれば、当日の利用も可能です。）

※感染性の病気（隔離保育）は、9:00～17:00の保育になります。

※感染力の強い病気のお子さんが先に予約、利用されている場合、その病気にかかったことがないお子さんは、感染の可能性がある為利用できません。また、複数の病気のお子さんが利用の場合、定員に空きがあってもお預かりできないことがあります。

※インフルエンザ、はしかの場合は、お預かりしていません。

※病気の種類等によっては、定員に空きがあってもお預かり出来ないことがあります。

持ち物

母子手帳、保険証、処方薬（説明書）
診察券（もりおかこども病院のある方）
着替え（2～3組）、お食事エプロン
ミルク、哺乳瓶、オムツ（おしりふき）
※お気に入りのオモチャ、タオル等

電話予約方法

* 直通 TEL **662-5619**

* 8:00～18:00の間対応

（相談も対応しています♪）

氏名・年齢・病名・経過・在籍保育園
受診病院・利用時間などを伺います。



気をつけて夏に流行る病気と対処

ヘルパンギーナ

ウイルスの感染でおこります。のどの痛み、突然の高熱が出ます。

のどの奥に水泡が出来ることもあり、痛みのために飲食が辛くなります。のどに優しい柔らかい物を食べましょう。水分補給を十分にして、うがいをして、のどを清潔にしましょう。登園は、発熱がなく、口腔内の痛みがなくなり普段の食事がとれれば出来ます。

アデノウイルス感染症

アデノウイルスに感染することでおこります。感染経路によって流行性角結膜炎（はやり目）、咽頭結膜炎や感染性胃腸炎の腹痛、嘔吐下痢や膀胱炎の症例もあります。

流行性結膜炎は、白目の充血、目やに、発熱、リンパ節の腫れなどの症状があります。

咽頭結膜炎は、突然の高熱、目の充血、のどが赤く腫れ痛みます。風邪の症状と同様なので、医師の受診を受ける必要があります。主な症状が消失して2日を経過後に登園出来ます。

手足口病

手のひら、足の裏、口の中に平たい米粒状の水泡が出来る病気です。

水泡は、かゆみはありませんが、口の中の水泡は破れて痛みます。食べると痛いので、食欲がなくなったり、よだれが出る場合があります。ウイルスは、便の中に数週間持続して排泄されるので感染性胃腸炎に準じた処理をします。登園は発熱、口腔内の水泡、潰瘍の影響がなく、普段の食事がとれれば出来ます。

発熱時の対処は？

熱さましは、体内の発熱物質作成を押さえる薬、病原に効くものではありません。感染による発熱は、体の防御反応ですから高熱でもすぐに解熱剤を使うのは、よくありません。水分が取れず、熱が辛い時やぐったりしている時に、一時的に楽にしてあげる薬と思ってください。高熱で解熱剤を使用しても急激には下がらない事もあり0.2～3℃下がったら良し効果ありと看病しましょう。寒気がないときは、冷罨法（アイスノンなど）を使用しましょう。解熱剤を使用して24時間以上経過しての下熱状態の持続は、治癒傾向へ、解熱剤なしで下熱した場合は、感染症の治癒に伴う自然下熱とみてよいとされます。

中耳炎・外耳炎も発熱します

乳幼児の発熱に中耳炎・外耳炎が多く、小児科で風邪治療していても、子供が「耳痛い」と言ったときには、耳鼻科の受診をしましょう。耳鼻咽喉科の適切な治療を受け、難聴等の防止に努めましょう。一度でも中耳炎の経験があるときは、「耳痛い」サインの早期発見をし、かかりつけ医として耳鼻科受診をしましょう。慢性化しないように注意しましょう。

子供の症状が変わったらどうする？

今日は鼻水・咳だった。小児科でお薬もらったのに、夜に熱が上がって、下痢もしてきた。こういった場合は、受診したときの対象療法の薬しか出ていなかったもので、熱さまし・下痢のお薬も必要になります。症状の変化に応じて再度受診をしましょう。初期症状は軽くても急性期は悪化が潜んでいます。24時間は慎重に子供の症状を観察しましょう。一度受診したからと安心せずに、症状が変わったら、再度受診を心がけて看病しましょう。

脱水のときは？

乳幼児は、体重に比較して水分の占める割合が高く、水に依存した状態にあります。そのため、発熱・嘔吐・下痢のときは、脱水症状の出現に注意が必要です。尿が出ない・少ない、濃い色の尿が出る、口唇の乾燥（皮膚乾燥も）、よだれの減少、瞼のくぼみ、体重減少（平常より10%以上減少）、意識が傾眠がちぐったりしている（重症症状）のときは、一刻も早く病院を受診しなければなりません。脱水を起こし痙攣が生じて死亡に至ることもあります。

対応は、水分補給（電解質）をすること。嘔吐があるときは、鎮吐剤（ナウゼリン）治療が必要です。1～2時間毎にこまめに与えて補って、尿が平常の出かたに戻れば脱水症状は改善に向かっていてと考えてよいでしょう。経口より水分摂取が困難な場合には、脱水が進行しぐったりして眠ってばかりいる傾眠状態といった意識障害になります。直ちに点滴の治療が必要な状態ですから医師の診察を受けてください。

※「病気のときママが優しくしてくれた」子供の心に残ります。三つ子の魂百までも！育児の思い出は連鎖しています。この子が親になったときのお手本になります。お仕事を休んでたっぷり愛情を注いで看（手をあて見る）て「病気のとき、おかゆを作ってくれた」など、愛情を受けた思い出を将来に残して思いやりのある子に育ててもらいましょう。自分もお仕事を休んで、子供と一緒に身体を休めましょう♪こどもの病気のとき、お仕事を休めないときは、病児保育の相談をしてください。たんぽぽ病児保育所：職員一同より